



# 宝城中学校だより

令和7（2025）年1月29日

第18号

校長 小田 哲也

学校教育目標：「集団の力を活かして、よりよい社会の創り手として「自走」できる生徒の育成」

## 1. 6年生を歓迎します。～おいでよ！宝の城へ～

1月22日（水）に新入生説明会「おいでよ！宝の城へ！」が開催されました。今回は、お世話を2年生が中心になって行いました。1年生は、6年生のために素敵なメッセージカードをつくってくれました。また3年生は宝城中学校を紹介する掲示物をつくってくれました。それぞれ心を込めたものができあがっていて、6年生も喜んでいただきたいと思います。

さて、開会行事が体育館で行われ、6年生に向けて中学2年生から歓迎の合唱がありました。その後6年生と本校の2年生が7つの会場に分かれてグループ交流を行い、トイレ休憩の後、再度体育館で、生徒会から中学校生活や行事についてのプレゼンを行いました。最後に、小学生が部活動を見学して終了となりました。当日、小学生と直接触れあったのは2年生でしたが、修学旅行の準備もある中で、6年生の皆さんのために、しっかりと準備をしてくれました。ありがとうございました。



※宝城中学校区<<人権のまちづくり>>推進員のみなさま、準備、片付け等、ご協力ありがとうございました。

## 2. 3年生は面接練習を頑張りました。

3年生のみなさんは本番の受験が始まっています。その前に、進路獲得のため、面接の練習で昼休み、放課後の時間を使っています。なぜ練習をするかという、いきなり面接をしたとしてもうまくできないからです。面接では、高校からどのようなことを聞かれるのか、どのようなところを見られているのか、ドアの開け方や閉め方、立ち方、座り方などを意識的に取り組む必要があります。

さて、私は面接官として練習を一緒にやっていますが、面接の練習で思い出すエピソードがあります。これは、ある高校の進路指導の先生から聞いた話ですが、その高校の生徒さんが、就職試験に行った時に、試験終了後、机の上に溜まっていた消しゴムのカスを手で集めて、それを持ち帰ったということでした。そんな指導を高校はしていませんでしたし、その生徒さんの自然なふるまいでした。しかし、その様子を見ていた会社の方が、「この子をぜひ我が社で雇いたい。どのような指導をすれば、このような生徒さんに育つのか。」と進路指導の先生に伝えてきたとのこと。短時間かもしれませんが、その人の人柄というのは、そういうところに出るとのこと、見ている人は見ているというエピソードです。

## 3. 駅伝大会の応援に行っと思うこと

1月16日(木)に大牟田市諏訪公園において、筑後地区中体連新人駅伝大会が行われました。チームは新チームとなり、1, 2年生が中心です。第1走者がスタート地点に立ち、スタートの1分前からカウントが始まります。女子は5名の選手が、それぞれ約2キロのコースを走り抜けます。男子は6名の選手が約3キロのコースを走り抜けます。

駅伝というスポーツは、長い距離走るペースを考え、いかに自分の力を効率よく出し切るかということが求められ、また次の走者に良い形でタスキを渡さなければならないというチームの一員としての役割もあるので、とても頭を使うスポーツです。心肺機能が鍛えられるのと同時に、足腰が強くなり、怪我をしにくい身体にもなっています。プロスポーツ選手のそのほとんどは、長い距離を「走る」ことで、身体を作っています。

12~3年前の話になりますが、全国中学校駅伝大会女子の部で優勝したチームは、出場した選手が陸上部ではなく、全員バスケットボール部の生徒だったということがありました。スポーツの基本は「走ること」だなあと感じたできごとでした。

そんなことを考えながら、応援をしていましたが、今回の新チームの皆さんは、前回の大会よりも総合で良い結果に終わりました。アンカーの選手がゴールした瞬間、「よくやったぞ」と心の底から思ったところでした。選手の皆さん、練習に取り組んできた生徒の皆さん、感動をありがとうございました。



第1走者	第2走者	第3走者	第4走者	第5走者	第6走者

※走ったメンバーの皆さん、とても感動しました。格好良かったぞー。(敬称略)